



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）海上安全分科委員会（SC 1）救命作業委員会（WG 1）リスボン会議

開催場所：European Maritime Safety Agency：ポルトガル・リスボン

会議期間：2018年10月22日～24日

参加者：リエゾンを含む9カ国19名

海技研からの出席者：宮崎恵子：知識・データシステム系 副系長（国際連携センター併任）

概要：

ISO/TC 8/SC 1/WG 1（以下、WG 1と記す。）は

- 国際規格案（DIS）投票中の「膨脹式救命器具のガス膨脹システム」は、手続き上の問題等を考慮し、制定に向けての文書の修正手順及びスケジュールを確認した。
- 救命艇等の整備に関する新規規格提案（NP）投票結果の各国コメント、水圧式離脱装置の規格改訂等について審議した。

主な貢献

宮崎は、プロジェクトリーダー（以下、PLとする）として、これまでの審議経過を踏まえて「膨脹式救命器具のガス膨脹システム」の規格改訂原案を作成した。この原案は、DIS投票中であるが、手続き上の問題及び制定期限を考慮し、制定に向けての文書の修正手順及びスケジュールを確認した。また、NP投票で新規に作成が認められた救命艇等の整備者の認証に関する規格の日本コメントについて、日本船舶技術研究協会川竹氏とともに説明した。



ISO/TC 8/SC 1/WG 1 リスボン会議参加者（最終日）



主な審議結果

主な審議結果は以下の通りである。審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 ISO/DIS 15738 膨張式救命設備のためのガス膨張システム（改訂）

宮崎が PL を務めている本規格は DIS 投票中であり、今次会議では前述のとおりスケジュール等を確認した。

2 ISO 17339 救命艇及び救助艇のためのシーアンカー（改訂）

宮崎が PL を務めた本規格が制定されたことが報告された。

3 ISO/NP 23678/ISO/NP PAS 23679 救命・救助艇、進水装置及び離脱装置の整備、総点検、運用試験、オーバーホール及び修理—訓練、能力評価及び要員

NP 投票で新規作成が認められた本規格は、現在の規格原案は整備経験のない技術者に対応しているため、当該投票の際に、日本から、整備経験のある技術者のためのパートを新たに作成することをコメントとして提出した。

今次会議では、日本を含む NP 投票の各国コメントをすべて審議した。日本が上記の内容を進めるにあたっては、新規規格提案を日本が行うことに合意した。

4 その他の ISO 規格の状況

「ISO/DIS 19912 イマーション・スーツ、耐暴露スーツ及び常時着用型スーツの整備」は、DIS 投票の際の各国コメントを審議した。「ISO/DIS 15734 水圧式離脱装置（改訂）」に関しては、改訂の主な目的である使い捨て型のプラスチック構造内部の金属部分の腐食に対する試験方法について、現在、温度変化のある塩水噴霧試験を試行している状況と、引き続き検証を行う予定を報告した。

「ISO/PAS 21195 船上からの落水者の検知システム」は、2018 年 5 月の WG 1 パナマ会議で委員会原案（CD）の技術的なコメントを審議した。PL から修正した規格原案の提出はなかったが、検知システムの試験状況を踏まえ作成中であることが報告された。「ISO/AWI PAS 22757 客船の避難の際の人の位置特定システム」は、新たに PL になった Collier Mike 氏が、システムの実証試験の予定を紹介し、規格原案の策定には着手はしていないが、性能要件を規定する内容にすること等の現時点での方針を述べた。

5 新規 ISO 規格の状況

極海コードに対応する救命設備の性能要件については、国際海事機関（IMO）船舶設備（SSE）小委員会で審議が進んでいることを踏まえ、日本が 2018 年 5 月の WG 1 パナマ会議に提出した文書も考慮し、カナダの Godin Nathalie 氏がまずはサバイバルキットの規格原案を作成することとなった。

6 次回会合

次回の SC 1 及び同 WG 1 会合は 2019 年 5 月にロンドンで、次回の WG 1 中間会合は 2019 年 10 月にカナダで、それぞれ開催される予定である。